

防災—亡き妻が遺したもの

3rd chapter 市街地にて

亡き妻と息子夫婦を弔うため、八事霊園に赴こうとした時三。しかし何をどう間違えたのか着いたのは名古屋市街だった。いよいよ老化が激しくなったかと考え込んでしまったが、転んでもただで起きる彼ではない。老いてなお食欲だけは旺盛な時三は、これ幸いにと最近噂の「名古屋飯」を制覇すべく、繁華街に繰り出した。きしめん、味噌カツ、エビフライと、次々と話題の食品をむさぼる時三であったが、ふと自分の有り金の乏しさに気がつく。なんと、財布の中には銅とアルミニウムしかないではないか。一生涯最大のピンチ。

しかし時三は慌てなかった。別に呆けてのほほんとしているからではなく、このようなときの避難方法を心得ていたからだ。市街地には市街地なりの逃げ方がある。そんなわけで、時三の緊急避難テクニックをご紹介します。

※注意！ 食い逃げはしてはいけません！また正しい避難をしても食い逃げは出来ません！



←時三(69)

本編の主人公のくせに、食って遊んで、うらやましい限りの隠居生活を満喫中。余談だが、墓地というのは墓石が倒れてくるため震災時には結構危ない場所である。



←紗耶香(19)

隠居モードの自堕落な祖父とは対照的に、ちゃんと真面目に授業に出ている。学校というのは比較的耐震化が進んでいることが多いので、時三も安心しておくりだしているようである。

市街地での避難



「市街地での避難は容易ではない。自宅なら各自で震災に備えてシミュレートなり準備なりができようが、市街地ではそうもいかぬ。どう避難したらよいかわからないし、被災時の緊急体制も知っていないのが普通じゃろう。また、場所や施設によって建物の揺れ方など震災時の状況も大きく異なる。それゆえパニックに陥りやすいのじゃが、どんな場所でもだいたい緊急時を想定したシステムが確立しており、それに精通している人物がいるはずなのじゃ。その者の指示にきちんと従えば、ちゃんと避難できるようになっておる。まずは慌てないことが大事じゃといえるじゃろうな」

市街地・屋内での避難の基本

地震じゃ！

見知らぬ場所で被災したときは、まずは己の保身を考えなければならぬ。利己主義と言うことではなく、自分の身は自分で守ることで、パニックを防いだり、本当に救助が必要な人に人手が行き渡ることにも繋がるのじゃ。

安全な場所へ逃げる

まずは慌てず、鞆などで頭部を保護しながらショーウィンドウや陳列棚から遠ざかるのが基本じゃな。その際天井からの落下物や、ガラスの破片などに気をつけることじゃ。

トイレにこもる

トイレや階段にいるときは、そこが安全なので下手に動かない方がよい。広いスペースや、周囲にものがないスペースは安全であるといえる。揺れが収まってから行動を開始するのじゃ。

避難口ヘダッシュ

残念じゃ。一目散に駆けだしたおぬしは、突然倒れてきた商品棚に押しつぶされてしまったぞ。ちゃんと落ちていて周囲の状況を把握するのが肝要じゃ。

避難じゃ！

市街地のだいたいの場所は、被災時には危険になる。いつまでもそんな場所にとどまっていたりしては危ない上、救助活動の妨げになる。迅速かつ果敢な行動で危険を乗り切るのじゃ。

係員の指示に従う

おぬしよりその場所・建物を熟知している人間に従うのが最善。どこに危険があり、どこが安全であるかなど、最適な避難方法を教えてくれるはずじゃ。ただし、いつの間にか違う人波に乗せられていることもあるので常に注意を払うがよい。

独断で行動する

残念じゃ。周りの制止を振り切って駆けだしたおぬしは、防火扉が全部閉まって閉じこめられてしまったぞ。震災時にはいつもとは勝手が違う。たとえ近道を知っていても軽々しく行動するのは慎むのじゃ。

大声でわめく

論外。おぬしの阿鼻叫喚で、パニックが起こってしまったのではないか。駆け出す人、おたおたする人、こうなっては収拾がつかぬ。適切に避難できなかった結果おぬしは1000人も巻き添えにしてしまったぞ。

災害伝言ダイヤル

緊急時に通常のメールや電話は混雑するゆえ、連絡を取るときは災害伝言ダイヤルを利用するのじゃ。電話番号をメールボックスとして、伝言を録音・再生することが出来るぞ。

使い方

1. 171 (局外なし)に電話を掛ける
 2. 録音をするのか再生をするのか選択
 3. 録音する場合は自分の電話番号を、再生する場合は相手の電話番号を入力する
 4. 伝言を録音する・伝言が再生される
- ※録音は震災時、被災地においてのみ可。
伝言の再生はどこからでもできる。

エレベーター

災害時にはエレベーターの中に閉じこめられてしまう可能性があるため、避難には絶対使用しないで。もし使用中に地震があったときは、全部の階のボタンを押して一番早く止まった階から脱出するのじゃ。閉じこめられてしまったときにも緊急用の電話が備えられている。いきなり天井から無理矢理脱出しようなどとは考えてはならない。

パニックとは？

パニックは以下の条件が重なったときに起こる。

1. 危険が突然発生すること
 2. 脱出しなければ助からないという認識が広がること
 3. 脱出口があること
 4. 脱出口が限られていること
- 地下街はこの条件にぴったりじゃが、パニックに流されずに行動することが生存率を高めるぞ。

市街地での避難実践編

施設内

- ・カバンなどで頭を保護しながら、ショーウィンドウや商品などから離れる。
- ・柱や壁際に身を寄せ、係員の指示を聞きながら、落ち着いて行動する。

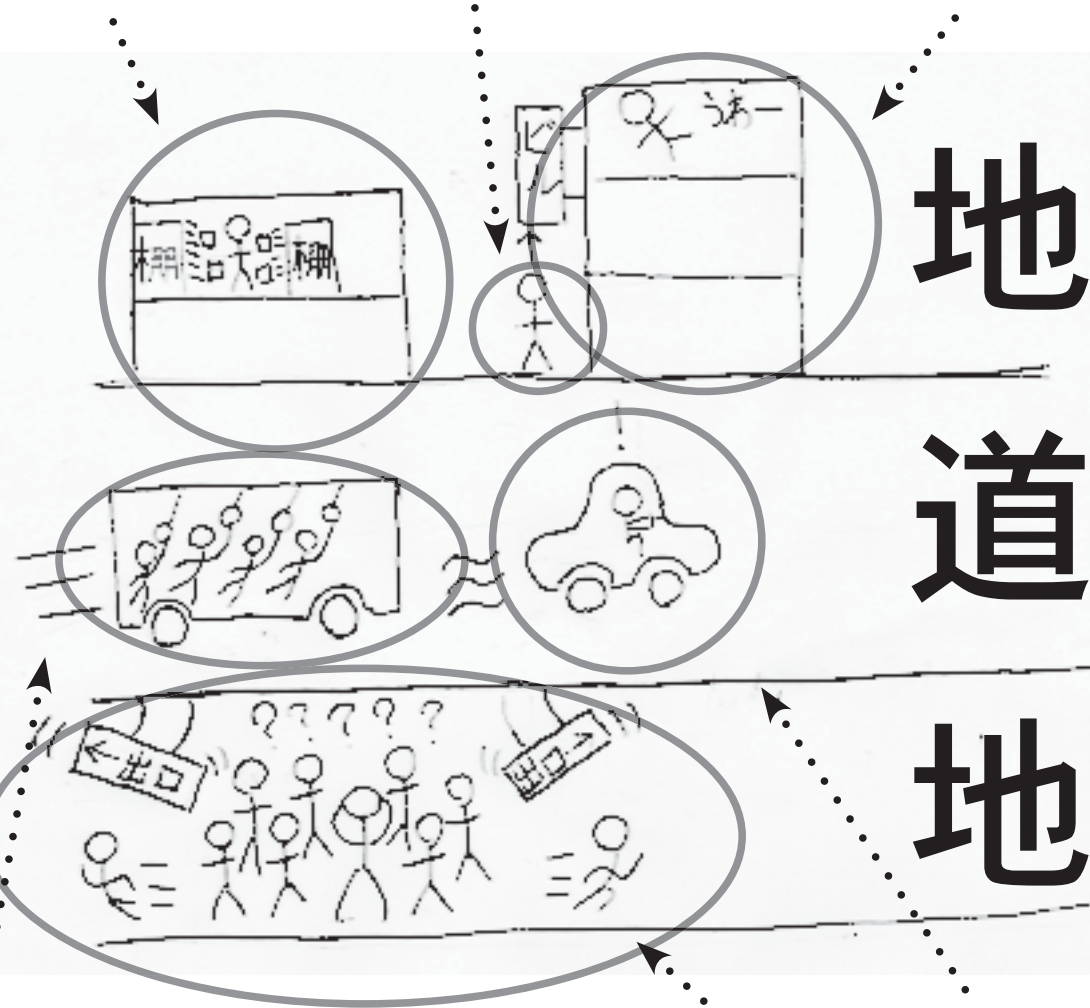
道端

- ・ブロック塀や自販機などの倒壊物に注意。家ごと倒れてくる場合も。
- ・倒れそうな電柱には注意。垂れ下がってきた電線も危険なので近寄らないようにする。

ビル内

- ・長期振動といって、上の階に上がるほど揺れが大きくなり、長期化する。揺れが収まるのを待つのが大切。
- ・ガラス張りの建物が多いので窓に近寄らないように。

地上 道 地下



電車・バス内

- ・急ブレーキが掛かるので、つり革や手すりを両手でつかむ。他の人の荷物にも注意を払う。
- ・車掌の指示に従うのが大切。間違っても非常口から慌てて飛び出さない。

地下街

- ・比較的安全な場所だが、天井から物が落ちてきたりするなどの危険も。
- ・パニックの発生が怖い。しかし壁づたいに落ち着いて歩けば必ず出口にたどり着ける。

車

- ・走行中に地震が起こると、パンクしたようになって運転が困難に。
- ・被災したら車を左に寄せて止める。鍵は差したままで、ドアロックもしない。避難に車の使用は厳禁。

4th chapter 大学にて

「もし地震の予兆が観測でき、東海地震注意情報(観測された現象が前兆現象である可能性が高まった場合)が発令された場合には全部の授業・研究は中止されるの。学生はそのとき帰宅することになっているんだけど、さらにその後東海地震警戒警報(東海地震の発生のおそれがあると判断された場合)が発令されると交通機関は停止しちゃうから、特に家が遠い人は気をつけて。

実際に地震が起こったら、まずは自分の身を守ること。大学内には他の場所にはない危険があることもあるから注意してね。地震が収まった後は先生の指示をよく聞いたり、友達と助け合って避難したりするように。詳しく知りたい人は、学生便覧の『地震防災対策について』を参照しよう」



懸念1 教室で講義中の場合

天井からプロジェクターとか蛍光灯が落ちてくる可能性があるかも。



講義室の机の下に隠れば問題ないよね。先生の指示に従って、友達と気遣い合って避難すれば大丈夫。

懸念2 図書館で自習中の場合

本が散乱するし、場合によっては本棚ごと倒れてくるかも。



本棚とか蛍光灯の付近からとっさには離れるのが大切ね。非常口への誘導に従えば安全に避難できるよ。

懸念3 実験中の場合

火災が発生したり、揺れた拍子に薬品が身体に掛かるかもしれない。



とにかく慌てないことが大切ね。ぐらっときたら火を消して、危険なものを安全な場所にすぐ移そうね。

大学内の防災関連コラム

避難訓練

10月の第2水曜日は国際防災の日で、名古屋大学でも地震防災訓練が行われるよ。IB館には起震車も来るからぜひ一度震度6(東海地震において名古屋で想定される揺れ)を体感してみて。

安否確認システム

被災時に速やかにネットで安否確認がとれるように大学が構築したシステムのこと。自分の安否情報だけでなく、友達や・大学への伝言を書き込めるようになっているの。詳しくはMynu(履修とかを登録するページ。<https://mynu.jp/>)を参照してね。

災害対策室

環境総合館の四階で活動している東海地域と学内の防災力向上のために活動する組織のことです。詳しくはホームページ(<http://anshin.seis.nagoya-u.ac.jp/taisaku/>)を参照してね。

次回は一時避難の方法です。

文責 ひでっちょ